

K a z a r i k a n a g u

鍔金具

Masako Shiozawa

塩澤 政子

かざり工房しおざわ 代表

- 1993年 墨田区伝統工芸保存会入会
- 2003年 すみだマイスター認定
- 2011年 墨田区伝統的手工芸技術保持者認定
- 2014年 墨田区登録無形文化財（工芸技術）
金工（鍔金具づくり）保持者認定
- 2015年 東京マイスター認定

◆受賞歴など

- 2010年 第6回東京の伝統工芸品チャレンジ大賞
大賞（都知事賞）受賞
- 2012年 マグネット「日本お持ち帰り」が
経済産業省 Wonder500 に認定



北斎キャラクターシリーズ「KAGURA」「NUPPERBOU」「HINA」
・第11回TASKものづくり大賞奨励賞受賞

手作り名刺入れ
「塹（たがね）の息吹」



かざりかなぐ

鍔金具とは？

「鍔金具」は、奈良時代より現代に伝えられている伝統工芸です。建築物や工芸品を、より美しく、より丈夫にしたいという「装飾」と「補強」を兼ねて作られてきました。

私たちが日毎、目にする機会の一つとしてはお祭りには欠かせないお神輿です。お神輿制作において重要な装飾の一部として長く親しまれてきました。なんと、驚くことにお神輿には約2000個もの「鍔金具」がついており、製作には約3ヶ月を要することもあります。

また、歴史的建造物に使用されている例を挙げれば、法隆寺の金堂の屋根には忍冬唐草模様の破風拜みと隅木の木口に、また五重塔の各重の垂木・尾垂木の木口に透彫りの「鍔金具」が飾られていることなども有名です。

技へのこだわり

鍔金具の製作においては、「毛彫」「打ち出し」「透かし」「やすりかけ」「きさげかけ」「磨き」など様々な工程があります。中でも絶対に欠かせない道具が模様を打ち出しの際に使用する塹（たがね）。実は鍔金具の繊細な模様達は、1500本以上にも及ぶ塹（たがね）の中から職人が要望にあうものを選択し、それらを用いて金槌で何百回何千回と打刻をすることで形をなしています。特に同氏の工房では、長年に渡って作り足されてきた塹（たがね）の数は群を抜いており、多種様々な要望に対して答えることを可能にしています。

同氏の作品は「塹（たがね）の選択力」「正確に打ち出す技術」「躍動感すらも感じさせる表現力」それら3つの高い技術によって観るものの心を魅了します。